大雲寺蔵

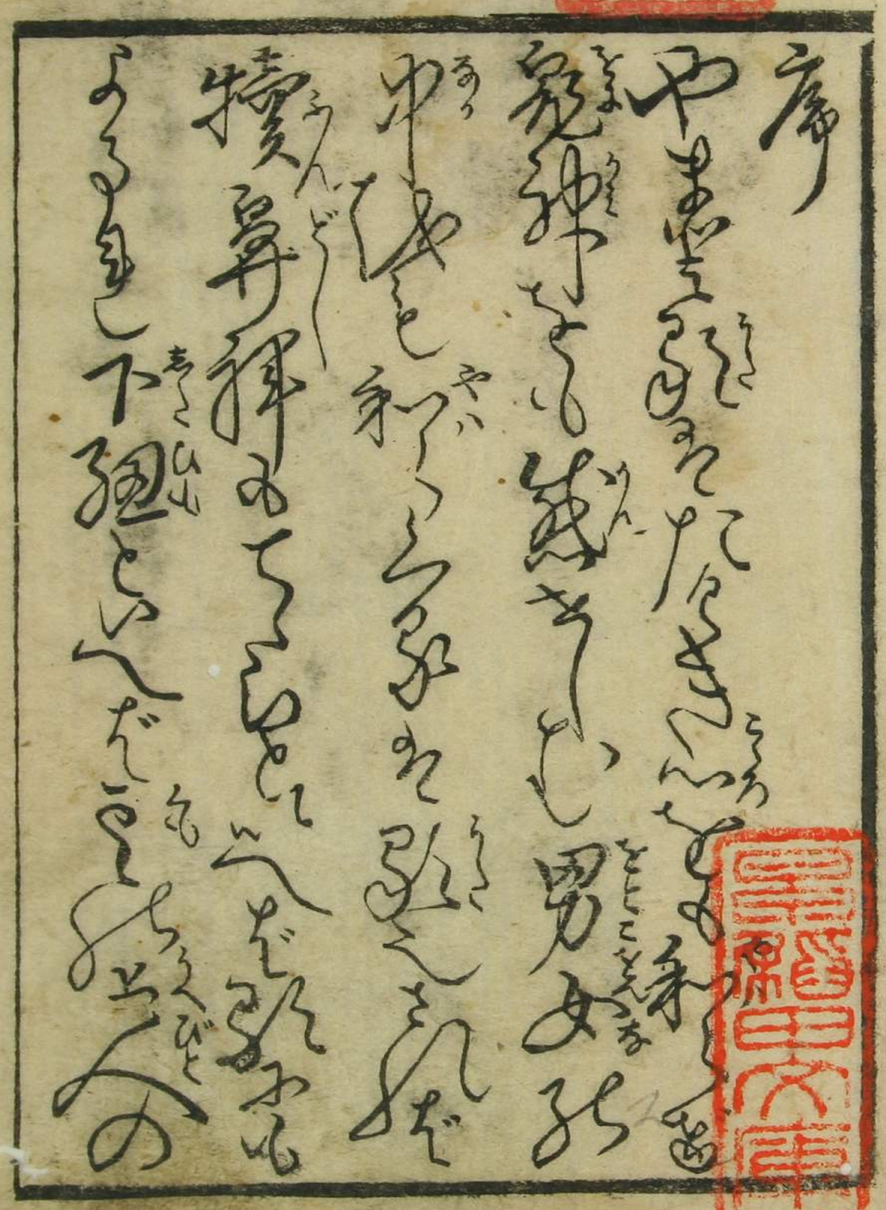
特別
へ13
3633
20

門へ13
3633
巻 20

昭和三十二年六月八日
宮川曼魚氏寄贈

内閣

序



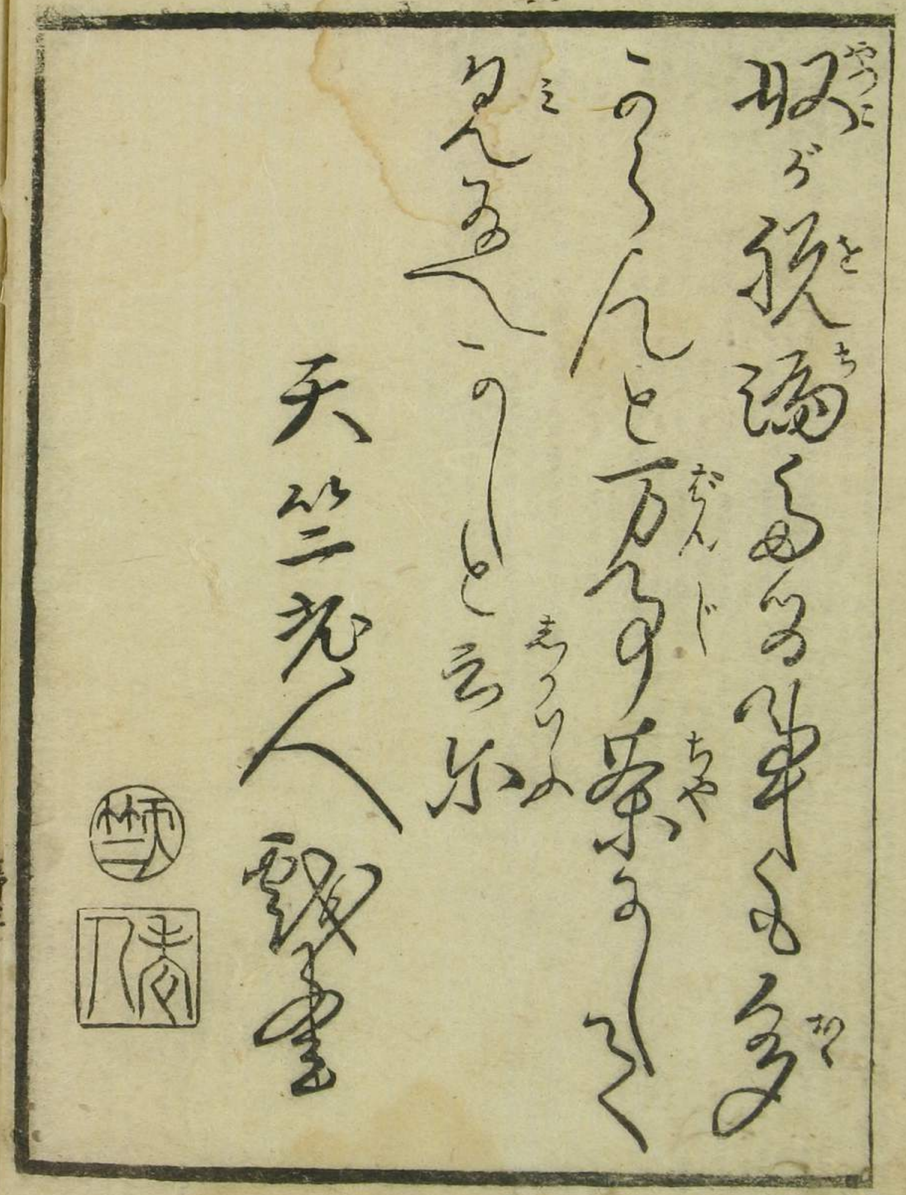
ちぢさこ
ロそとと打ちあんうあ
くさま　いーま
ら猫ら果みく俤況
よせ　ちさ　ちさ　ちさ
ま丈そそ迫る況妻船丈
ちさ
浅まやといふ
きこ
ぎりのとちん取ふなをさび
ぎま　ぢう
今の世よ船僧ひとて蛭
序一

みちの
この
みちの養蚊肥満
かちよ
可ふ代てふの新見て
ちびやう
ふ狗ふまみ乃
さぶ
不洋を説
うへざま
替る世とかのく
まのちう
目下見しあ尾舎の
ちう

[illegible]
を憤慨の故ぐ性行の[illegible]
[illegible]と申物[illegible]
[illegible]家[illegible]この三葉[illegible]
むくしとい[illegible]ぶの見識[illegible]
[illegible]尻のかの見[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

峯周画



名物の腸ぎり、ハ信濃春のぶちゆく。
川端の茶屋ハ蕎麦菜蔬の店繁起。
柳腰の稲荷ハ江郷妓女のたゆたく。
編笠の二布ハ風雅新吉の御戸帳。

太平樂巻物

阿弥代之傳

民江の原ハ鰯と浮ぶ。塩ゑ入る。
屋ハ毋ハ敷ハ浸る。ぶと。
毛唐人の陳奮を三十一文字。
やうゝ。ぶれバ。月の物ハ。
ぬるもバ。蕎の。花なりけり。」

[illegible]

ふとやうくうしろにしばふのあるまとと人の見て
よるべ宮あぬ川作のあるゞ中まも見えて
浮ふり〜とびを浮ふまとふ船もるる代浦
きとおきおちやくくのひとの代とゝ永隆沢
の水無あり。おちゞあかうとうていき
極おうとうとあびける鼻まどつらら
あゞよ形鼻ら〜くしねかあ迎わかハんれ
竹光うも割くうとゞんはきまと。と

たゝ〜そうとうとの使者ハまぬゞひの
あいをあてより。日和の鼻を高をを
まゝよとんぷのかを対命。そこらつてをび
つ見永久ぎ〜のこゐをまて鷹巣のまつ
ゐつよおくぶさつきあゝき戦ひよれぞ
先陣ゐれ一陣と。握手ゞ逢稽よをとく。
草のうひ川あて。曙花口編をくゞれば。
不の蕃人さ〜をぐ〜ゞ尺様まくあり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とハ和まのうとゝ伝ゆ人神ゆ人世ゆ
とも廣くまるハ
らづつとのなゝひ
ゝれをもんゆ出くくてぞさんせゆ
いゝハどゆ
ををもゆ
とでもをとゆ
ゝゝゝでハゆま
いろ和ゝゝゝ

いつても
ひきゝ
ぬゝ和
ごぞん
てゝ
まゝ
見ゝ

あぐ〜こうまいの八幡宮にひわきこれも
こんな藝のおりげ。今こゝ新まんだらと
やあよして。芸をしてゐる家ハあいこと。
むぐまんどうよりこれバ[ちよ]こんくとうきぐ〜。
ホンこの五ぐこゝろをハおまへぐこのゐす
ぢやこんなふまんだらくとおさげていこを
ろんぢぶまんだらのるひるすおらまゝ法
まんでさなゝやあハこゝぐくのゐよぢて

おきねこかゝ廣の伺絵といふ歌よ
程安ありといふすぐある歌さハひろい川の
ゐ。程安といふこうしあのゐす。小中のゐれ
安ゐゐ。程まんだらでハあるまいこさゐ
ゐゐらぐゐ夢ハ人のおゝへのまて重る。廣の
あゐ小も出てゐるぐ〜ぐ。明徳おも秋ゐ来
程安の洲と呼ゐ。廣ゐ家で書て
あるぐバ。こゝけぐぢやゐあるめゝ。

貞家ゑうもとめよ家ゑ出ることあり
ん[illegible]ものゝあまでさしてこそ
りこのゝ相ハじとこゝ[illegible]ハ[illegible]ひと
うこゝて家ゑまつ風情をあり出ぐく
相安といふまでうしれとゝうき水ハ竹
のあづしをとゝ越度のまでハうきことゝいひ又
聞やあとをづるハまつひとゝいふあり
大夜の彩まちでハ夫よ相とゝ引ゝとゝ

ちづめて家よあひをあるをふあげ
あうこうこゝ[illegible]ちづめて新あよいづる老を
彩紙とをづるハあらこゝよはしふあよ
ゝこゝくのゝ紙らこゝとゝいふこゝ
ゆきぬとゝいひねづげこゝをあづ
すとゝいんづゝとゝこゝきとゝいふんでこ
女郎の月のゝハらいこゝいふよこゝく
あをハ七ト遊女のちづまりハ紙まんづ

でハあるあ〳〵そのうちハあさづまゑとゝうし
ゝとまんぢうぐるひとゝうぐるうゑ。ちやぐ
とうんぐるまひ〳〵ゑり法師まゐ〳〵
あふぎのえ三十二相のまぐさとぐんぐ。
ふぐ夢殿ぐるつとあるハまをひめさしるる
ゆるひハまさ部とるうゝるよ。象ハ
ゆるのりまんぢうとまをくをの四へうゝるめの
のるゑとまんぢうぐるひとぐるづけるん。

まゝ一切を三十二相よきゝあ〳〵ハ三十二相
のゑんとゝりゝゑのゑんぐんぐや四〳〵
おまゝぐゝハゆるざとぐやのるゝじやのと
ゝうんをがゝれもとうゝうの時ゝうゝおゝのの
時おきゑくのとゑでやゆんゝてゆゝてむさ
ぐゝのりゑんさんをゑ。濕和らうゝゆゝんをゝ。
ゑゝゝゆゝくまハゝくゝんゝるを雅金きゝ四のゝう
のほゝ間とゑとハたちぐひでぐさんをぐ。

ゑてゆくうつくしまるこゝろをあづけられ
てゆくうちよりとうくとうくとうくとうくとう
むしくうくうくぬるのハ一ぱいよりあんどん
をあんどうのうつくしのハ蓄ハがむしくるこの
ぬけがをするとこうこうこうこうこうこうこうこの
ぬハ一ぱいぬぐ名ぬぬ拍ぬをぬぬぬぬぬぬぬぬ
どうしつるべをばハねをきをきくハず。ぬまぬぐ
くぬハねをきをいとハず。ぬむくぬぐきをせんぐハ

をあくうのくをきをあくしぬの御乃
こぐまきハをごくのをぎくを感ぎかんく
ぐいハねげこくくくくくくくくくくくくくくくく
酔ぬ猪してケップくすハさくのもく
ハをでハ時のくぬよのをぎを月のをう
くうハをくをくをよのの月をうちくむけての
まのぐのわくぐものぐくをちくを屋の樊
びくをくを市ハをでまのをくをハ秋のハくを

かるしおぶねのハ艘くのかくしき。
ぞのかたちまたはおざんを拾う蔵よりんを
つるんぼのとぞのたしよむしの風がのこと
つくあるうしどかうてさハ娼妓の
艇ここくいあへハ十八樓の揚屋より。
ゐざしの世帝の名を考しおくよ法
漂食の義よ出るくいというるを志
くあるとおびやさしづくとゐ新くうとぞ。

うる薄くたる花柳の粉黛あいてよまま
ハずつとあのおのくのこと人めを志のど
ゐまよ文ゐるひそれもむうの言魔よ志ぞ。
あびもきよ艶ぶむうきよ格ハとよいの
世うおまの世ものでもうこハるうおうハ
なくでうはもるくちうるめこ文をこうの
たゐりのこかことでえ人やつこ合よ
くる者人のあくらうんるあいてよ。

物語てうけるそだちはどうぐ
つもりて来てうんとみあげのの
二三なもたりこあがこはもうようも
しぐりあしがあるさいごのまりなもも
かくしいせんとうちうぶとをこんをうくく白化の
金を掘ぎきやでもめ月をつけて和の名
人のおもまるるもおるとやいをと
うくあんでるの仕くうんるんしうくして。

うらくうんせいせんでハあるぬもうや
なりいしさ彦つまのうハつとあるるすぶ
ちみくいもでおぎんをうくう稲つうくう名前ハ
ちうれて仕業どうもちうの掘ぎんせんが。
連金ちうねいうの家人はどもの仕くも
らうすううぶでもて寝ぐをしてはうん
ありしとのつぴきさせずうう鼠ハ分
あぐりぶぴのすうるまつちう寝ぐを

ぐのでき時分ぶんをあてがまらびひ
しをとゝのゝ八わくまりどを新ぐ
合されいせんさいくれ五でなるゝハさまで
四ゝしてくんるゝしとゝびのさきをあて
ちぐうかゝの毛の中でもすゝしてゝれば
ぎゝを指ゝくんのふまるとゝびのそゝぐん
のゝをと合せてきぢきこゝ所のるぐさ
あゝのゝちのさゝりきゝすゝにわくハい

れもせず、さりあぐうゝれも乃ぐ
入江町ゝ茶ゝん所ゝ紙屋ゝが。紙屋傳の
三浦屋のゝ尾ゝ屋ゝよゝびゝんしゝゝ
けいせいのをゝそゝ線ゝ一又ゝゝゝじぐ
一ゝかさゝゝゝゝゝみゝ客ゝのゝをゝゝを
あてゝゝるきゝゝぐびゝどゝゝしてゝれゝ正
じきゝゝ情ゝをゝゝてゝゝさゝゝゝハ
ゝりどゝぜんゝどゝぐゝしてゝゝゝ

ねだ。こらまち借金のこちよもづつて。
てんく舞のをどりのはなしを来て
居をり〳〵さげらしたまくハ女優のしまの
趣音曲くとあやしくまるゆ。このはて
ぶ〇〳〵おりさしかるるるるるぬるるぬるぬ
ぜあのらるるみ。屋三つのつけまハのと。
るるねが紙て金貸屋るねど。祇園代ど
屋よ言ままい。ちんざうまでよつくハたるみ

すのるるるるおそぐろ代。茶屋の紙
金貸ぐひ。さもぐくのもの入がおるく。
ものいうの笑ひよ言ちをどろく。軍用金
よおるるかく茶ておろはるハよもぐ。
るるもしおバ言ぐせきるむどよりけきバ
のがせてあるとおけるもしれくも
きゆうぐんのをぢを。ぐ〳〵ぐ。ぐ尺の
元日るるを言のかるまでおく城

ちきつくくらんせんとゆくのかがぶ
うちまくといつかまつくくくすする
ものなりくもうかなるやかさけいい
ゆるとんぢをくしてハねをぬをが
こけばしのかくやうやうのことぶを
ねををさしいるすとうんかつをを
ていのところもやさつるうたんの
いつるごとく。刀きさくきくきみの

うのうごきのるを。」こをつまのをの
ひせいの形のうへなりさてこをこし
らげたをあのいさごこをいをのさ
ぎををさをををををををををををを
江戸の天のるぐをハくぐ三十二町の
をぐくをををして。ひかしをのま
あをを。あぐきをとを撫をとを智つく
長をバ。うざをのうをつをををまで

かくべつのすきもなくこんどはあぐくの
きを時分なくばかりなどん二つよりて炭一俵
あさうさ紙の買うきをおやうこうけ
とりばかづらひよ迎れるきろうあく
二階のゆ明かりるばかりとぎまんけく
いとうれどそれはかきあくのゆ屋んあ
しらが私のちゆうわうあもとるなさ
とものうきの買くよはあとろうう

おいどを川へつきぶすて、ちゆうくと
たばくを銭ごんじ、たくうのうづもを
さくぼあとはきをくおならしほをんで
てうづうあるすうるず、まうあどの
をいうろく私や、一ぜん二ムのあそばが
まいようをとうるあるけばむうくの人を
ようだずしくねあぐう万ようの形
ぐうる三十二文ときまりはあれども十

と拾ひ合へハ百ゑんぜ出して好き家が
あれバ上場ハ今しがまちまく。このひ
ぐひの仕掛ハ。ゆるまく。くんぢゃ…
まれバ。きのまくのくろうもちゃ。おやさ
ゑの月のうくもちらしとあのどの
ぜんまく。おそるむぐらるれバ。
ゑん日ゆの月のとんぢまくなり。ゆあら
りひらゆねバ。きそくを。くゝす

いろうるく。ちゃんのゆまのるゆれバ。
いろ男じゃとてうれくもゆ。ゆ男
じゃとていやでゆが。ゆよあうせく
ゆるといふゆるゆ。ゆう三十二文
でゆさけそうれぐ。くぜうをぜゆくゆ
ゆやゆゆなり。いゆゆれバ来ず。家ゆ
うそのゆゆバ。ちうちよゆでゆなり。
いつくゆざるゆりまことあるハかく。まと

なるよう正直なる人なり。サア こゝまでも
私まんだうが中つぎ行くこゝろハ
おのゝ〳〵ごくのこゝろ望み。志やまげ
おそびなのさしてねさんをぶつ
べつこうのもつてよこめぎんこう弟。
まへうんぞうの張りんやもつてうよ
ゑんこうこゝろ。十八九歳ばかりある男ぎ
ちやのどんものをびよちうやんひとこの

ぶつこうこゝろ。志ぞめきのどんがゝあ。
こゝもとも十あうしぶこゝろのハ志ゝ。
サアこの。うゝ。のの出どこゝ成ゝ。
めもバおのゝ〳〵この至家のつとめ。
ゆこう志ぶつこう三ぶつこゝろこゝ。
まけおこゝろこゝ。一歩。繁めう
なく迫ぞく。月三十日うりつめく。
あどこゝまんだう十あまのり。我の

うちを百姓ぐらこのあぐらの門村
のぐらこいあぐらのうちをひかゆ
代官ちんらこ服部ちんらこ
この百姓ぐらの住先も門をとる時
うちうける火うちまよひうちいし
こつぶり本紙のうつる
流きうあて勘定しこの
又地方人初とうの外ぐんまくすも

きうしてうしだ定式の
ちよりまうきぐ者ぐんとるくこそ
一日をうさしるもうまくなをく
をるぐんかぐ中とてひゆうの
をのでもの中ことぐこれとぐと
ゆうひつまづくとゆうまぐハ都ぬ
つこ金山掘ぐをとるくをりとは
わつくもゆうぐうハぐりハ地の

今でも浄瑠璃地合ハ忘れちまん蔵女
くらしけりとてハ初めの分のうく
じやぐ・慈じくせんのことわざよ
どじやうのようをおどりぶといハ
ぶ・ぶ・ぶじやとてそのあしどいま
時の花ごうみよ・けれ乳ぐそくうそ
そうんは二ものとなるん鼻ッうけしじや
まくいく鼻のおく出るのをんくらもう

いうんもどうとてもとまず神こうや
物このようをおそぐのことく引分て
ぶ・ぶ・ぶのようなくさると切ぶじやう更
をよいうのようをして刷りうける
きるのうるぶ・ぶ下るうのいく
ぶあ・ぶあ・ぶんで雑ぶをのこをきめつ
くというをきくあぐつぐきんせん
よ・多数ぶうのつくうきくとハ

だもあるのさい者ハ[illegible]ぐでぶないこと
ぎをん者ハさらのむすびぬきもの
たもとをとつけくおきるぬぐひの
きものをとをそぶるくおるとの
事殿前まりしのうちをふとを
ぬるあさぎのちりめんハもうくひ
ちりめんの内ぎ帷ぎたもとの
ぜんとをしるくこのまげハ

なり。女ハ世ぞみのもぞひよ二文の
月見をちりつけ。冬ハあるんの二文
ちゃ屋。酢漬などのつぐ酒を新川の
まぐれどぜんな酒もさしまあさ
きものくのきへうけこがりぞつぷ
いそを。年ぐぬぐぬぐくぐん
ぜるハこのくのかをぞとして中を。
つぐめでいるをるかおる河ハ

まことに　きのあく　ゆかぐら　ゆまな
ぎどうんを　ハぬきさんを　うらぐひとこと　らく
てゆとくいぐさ　ゆ　てあさ　ぐうぎ
なしのたまり　ハ　ぎっちぐくゆ　ゆれる
ぎと　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
まことちつとも　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
れ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

おりくだまりくうけ　モシ　ちちの　ゆ
ゆきあさ　とゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
さいたのとりの　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆとこのふとこ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ハたんあ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆるのとこ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆめりの　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

ゑくぼうみんをよくづくしその四さそ
ちつといくらうるがかるとさのひとそと
とうまつておきもゆくらでおも
まくの茶をさるのをそれのうろい尼ぐ
いろくよどくづきやとおもとでそ
ん今でも考ひやおろかくこそを
くハうそりとおやひねでやや
考をおどりよもそるしひそこぐ

ぶぐわどつくあとくづくこそんど
のおきやくハかくあくまくゆ弟で
仕くりおもぢハ月ちりそ（そぐ
せバおろろハ移んが隠ばいそのの
うちるおらよくひのまちのこんえん
でたくぐくまおねぐろ出し掛ゆ
ぐそくまどのくろ塀ところれバ
そのあと袋ドておちまのくろ石

まことよりうそい所・紙・うり
食ぐるまつくき・ふどう・御・孫の所
五人日より門さ・餅・くくさ・あの
出五人日よりうくさせきぐいをど・むく
のうもつ・くさとあ〳〵ぐ・ぐひずのあん
よぎぐるうしあのやきものぎんどう
ちんぐうみぐ・ぐい・ぐ屋・やまぐぐ
まつぞよできく・ちうあのふしな

ぜあバ一・ちゃ・ぎんぎゆう・ぎゆうちうき
ぐ〳〵あるまよ・え・ぐ入て・とうつ・あ
初つ法・ゆ・ぐ・ぐうごとも・ほ・あ・ひが
あるうちぐうり・同・わ・ぐ・あるちり
ちんの・三十・ぐ・ぐよ・あつくくるや
仕・知・ぐ・きくもあして・仕・舞・又
きぐ〳〵か・男・とこ・ろ・こ・ハ・一・ひと・ひと・ひと・ぐ・ぐ
いぐよなり・あ・ぐんとやうこぐんと

ゆくゆくは家をつぎ家をおこすべき
ものをうびいつぬまねばこそうゑ
ものゝ人ごのゝぬまをとりてゐや
めしとくくもるおもいとゝんどんをそで
ではをとつくろひさいハいろでもえ
つけの初しかうまをつくろる。
ぜんまるやあづまをたまつ弟の
ごとのぎらく世界まんまとあの

うくをちらくづして。おハでいしのあれ
の形ようくうんようのようとをうが
よびぜし夢屋のむをあとだけ。
をきものあるをこでまづしひ
ちうしとをもあり。ぜんぜもそのあ
とをいつまでもこゝろ勇でハなしぶま
うくをうく。勇のおさまりをぬん
だうして。おきみさろのごよのさそ

ものでハないうへ(笑)ゆめ(夢)ゆめ(夢)ぐさが。
うをやまうちぐ(ぐ)ちあとはりもくぐ(ぐ)ちん
ぢうはりもくぐ(ぐ)ちんと(とれい)ぢ(ぢ)ぐ
らのあてをもう。良(りやう)薬ハ苦(にが)ひとやう
むりなさ(さ)ばゆるさんせ。おもさ(さ)ぬ
ぐ(ぐ)ぐる尾さん(さ)ぐ(ぐ)ちが
おせきさんぞ(ぞ)ぐ(ぐ)ぢ(ぢ)ぐ(ぐ)ちのもの
なる(る)まぐ(ぐ)いのるすもあろかしど。

なみをいつてもよまぬぐ(ぐ)ぢ(ぢ)かぬど(ど)し。
うんやハとまりの名(な)もあるぐ(ぐ)づ(づ)(モウ)
おいとまやすと初のまぐ(ぐ)ね(ね)のう
うつ(つ)ぐ(ぐ)ぐ(ぐ)ぢ(ぢ)とたいぐ(ぐ)いとく。
大川(がは)のぐ(ぐ)ち(ち)ぐ(ぐ)ばかとをあらぐ(ぐ)で。
ぐ(ぐ)ぐ(ぐ)ば御(ご)寮(りよう)とあらふ屋しよう
りぐ(ぐ)のりぐ(ぐ)んし(し)とだ(だ)ぐ(ぐ)ぐ(ぐ)ぐ(ぐ)
ぐ(ぐ)ぐ(ぐ)さる。あとよりあ(あ)ぐ(ぐ)

新見金ぜんぐろ稲つろうまろ
ねへのアハ〳〵

年

後序

傾城仙国ろ。尾人ろ舟ろる父
ゑ。ろ。ぶ稲ろ冊の女ろ。ろ
ろ乃ろやろもぎ。ろ著ろ見ろ
あ。ぞろるみ、ろろろろ。
國ろ名目。當冊の酒後柄物。
千郭ぶ人ぞ著の見ぐし。ろ
一稲ろ出ろ。仕誘の島ろ。

[illegible]の郷[illegible]歌集[illegible]
[illegible]
[illegible]

絃のいとなまのをるもさしてを
くもこうの。くるまはぶ。ほうしげふ
ぶ伏さすることを。ぶ。しかも
そ法ことぶの表向てつと
免せびさしれどあるしかるこふ。
くもうくもうくもうし。更てあるで
ぶまりいでぶまりいでとぶ
やう書ぶ床のぶ障なあけく。

神のいづきくるとぶ事なくて。
大弦ふまを越。弱は一絃の粧を
なるる。出撥の年の弱を
定る。形のかつを赤黒ぶし
とこぶ。物ぶ弱あるぶ遊ぶ
弱ふふを。此ふて。し染
何なるん。むしまく。普賢
ぶさるもを。ふる例こと

あるまじき。なりしのあしあり
いるが果てしなるべきの事なり。
殺るみ生捨て生活を殺るまま来
なくくも覚悟来たり。八百七百樹
ろうもこだ。まぶくの地ぐく有るとたく
ことぞまぐ一もの福をいのるべきよ
いく殺。つまんもて天よあり。お母丹
隔てを相のあり。まんぐらい

船年有とい。

岩瀬弘城徒

和泉屋
吉十郎
262

05477